

石川病薬ニュース

石川県病院薬剤師会会報

平成31年(2019)/3.31 発行 No. 170

CONTENTS

- ・巻頭言
- ・第29回 日本病院薬剤師会 北陸ブロック学術大会
- ・薬局の窓口から
- ・エキスパートに聞く! ~輝く石川のキラ星~
- ・委員会報告
- ・書籍紹介
- ・他都道府県病薬会誌寄贈一覧
- ・南船北馬
- ・寄稿
- ・病薬ニュース索引



〔巻頭言〕

地域に住む一病院薬剤師として	石川県病院薬剤師会 公立穴水総合病院	総務委員長 副薬剤師長	林 要	1
----------------	-----------------------	----------------	-----	---

〔第29回 日本病院薬剤師会 北陸ブロック学術大会〕

発表者報告

当院における一般名処方推進に関する取り組み	河北中央病院	谷山 徹	3
金沢医科大学病院における多職種連携教育の試み（第2報）	金沢医科大学病院	高野 克彦	5
金沢大学附属病院における未承認等医薬品の使用の管理に関する取り組み	金沢大学附属病院	板井 進悟	7
小児造血幹細胞移植患者における栄養管理	金沢大学附属病院	中川 有衣	9
調剤室における小児薬用量確認業務の標準化への取組み	金沢医療センター	河村真由梨	11

〔薬局の窓口から（74）〕

注射部位を揉む？揉まない？	石川県立中央病院	吉田 正暢	13
---------------	----------	-------	----

〔エキスパートに聞く！ ～輝く石川のキラ星～（12）〕

『外来がん治療認定薬剤師』	国家公務員共済組合連合会 北陸病院	向 一美	18
---------------	-------------------	------	----

〔委員会報告〕

精神科病院委員会

平成30年度 第1回 精神科病院委員会研修会報告 ～ポーッとさせてんじゃねえよ！～	金沢大学附属病院	坪内 清貴	23
--	----------	-------	----

感染制御委員会

第14回 石川県感染制御セミナー開催報告	JCHO金沢病院	西上 潤	25
----------------------	----------	------	----

がん治療委員会

第33回 がん薬物療法セミナー開催報告	石川県立中央病院	久保 杏奈	27
---------------------	----------	-------	----

中小病院委員会

第31回 中小病院薬剤師施設見学研修会報告（石川県立中央病院）	金沢有松病院	中曽根規子	29
---------------------------------	--------	-------	----

感染制御委員会

第15回 石川県感染制御セミナー開催報告	浅ノ川総合病院	笹山 潔	31
----------------------	---------	------	----

〔書籍紹介〕

緩和医療に従事する方に分かりやすい書籍が発売されました！！ オピオイド～病院から在宅における緩和医療のためのQ&A～	金沢赤十字病院	大川 浩子	33
---	---------	-------	----

〔他都道府県病薬会誌寄贈一覧〕	34
-----------------	----

〔南船北馬〕	35
--------	----

〔寄稿〕

「古寺との結縁-47」 観心寺・葛井寺・道明寺 ～一年にこの日だけのご開帳～	院瀬見義弘	36
---	-------	----

〔病薬ニュース索引〕	40
------------	----

〔編集後記〕

〔病薬ニュース発行欄〕

※石川県病院薬剤師会ホームページ・会員専用ページのパスワードが新しくなりました。
 ※年度末の病薬ニュースに掲載していた「病薬の動き」については、石川県病院薬剤師会ホームページをご覧ください。

表紙写真 撮影
：熊走 尚志

春から初夏にかけての兼六園

表紙の写真は杜若とつつじが咲く手前に身づくろいしている一羽のかがもが目にとまった。
 このかがもは、よく耳にする“かるがも”という種類で一年中日本で生活する「留鳥」であることがわかった。
 次の写真は、花びらの大きさや色合いに引かれた「枝垂れ桜」で思わず立ち止まってしまった。
 全景にしようか、枝の見事さを載せようか迷った。

地域に住む一病院薬剤師として

石川県病院薬剤師会 総務委員長 林 要
公立穴水総合病院 副薬剤師長

私が、公立穴水総合病院に就職したのは、昭和60年4月です。当時は外来調剤が主で、多い日には1日700枚余りの処方箋をほとんど手作業で調剤していました。その後、自動錠剤分包機が導入され、院外処方となり、薬剤管理指導業務が開始されました。現在は、加えて持参薬チェック、病棟内服薬のセット等が業務として行われています。

私は、午前中、兜診療所という当院の分院に勤務し、外来調剤と服薬指導を行なっています。診察は超ベテランの医師や本院から派遣された若い医師らが日替わりで行なっており、そのため薬に関する相談も多く説明や提言・助言も行っています。また、地域包括支援センターでの勤務、行政職での介護保険担当の経験もあり、医師や患者さんからの介護保険サービスに関する相談も多く、介護保険サービスを受ける手順から、どんなサービスがあるのか説明を行なっています。その場合、相談を受けた患者さんの理解度・家族構成・家庭環境など背景にあるものも考慮しながら説明を行うことを心がけています。他に、能登北部糖尿病重症化予防連携部会の穴水支部の幹事としての活動も行っており、その活動の一つに、糖尿病の事例検討会を開催しています。この検討会は「糖尿病」と謳ってはいますが行政、医療関係者、介護関係者に集まってもらい、話をする中で、お互いの顔が見える環境を作り多職種の連携をしやすくするというのが本当の目的です。

これらのことは小さな活動ですが、地域包括ケアシステムの構築につながると信じて活動しています。

このような活動をしていると「専門性」とは何かあらためて考えさせられることがあります。現在、インターネット等で情報が簡単に得られるようになり知識は誰もが得ることができます。専門性とは「知っている」だけという上辺だけの知識ではなく「知った」ことを自分なりに噛み砕いて、自分の経験などから理解した上で、内容のある提言・助言、説明ができることだと私なりに理解しています。そして、専門性を高めるには、日々の努力研鑽が必要です。

大きな施設、小さな施設、その立場や環境によって関わり方は違ってくると思いますが自分が置かれた場所で、この専門性を発揮することでチーム医療や地域包括ケアシステムの中で信頼できる薬剤師と

して存在感が出てくるのではないのでしょうか。

最後に、私は、平成31年3月末日をもちまして、定年退職を迎えます。これまで石川県病薬において、平成12年より7年間教育研修委員、平成27年より4年間総務委員、そして野球部員として34年間活動させていただきました。そのおかげでいろいろな方と出会えて本当に良かったと思っております。皆様に心から感謝申し上げます。

